

第4章 環境保全活動への参加と協働

第1節 環境教育・学習の推進

1 環境教育・学習の拠点整備

1-1 三重県環境学習情報センターの整備・充実

県民に開かれた環境教育・学習・情報受発信の拠点として研修機能、情報提供、展示啓発機能等を整備、こどもから大人まで幅広く利用できる施設として充実に努めています。

三重県環境学習情報センターでの環境教育に関する主な業務内容

【業務の柱】

- ①先進的、実践的な行動を促す環境教育
- ②環境保全活動のパートナーシップの推進
- ③人と情報のグローバルなネットワークの構築

【主な業務】

- ・環境教育のための教材開発、調査研究
- ・展示機能やライブラリー機能の提供と企画
- ・地域のリーダーや教育指導者等の養成
- ・県民、ボランティア団体、企業とのネットワーク化
- ・環境教育に係る情報の収集、加工と情報発信
- ・施設を利用した環境講座、環境実習、交流事業等の実施

1-2 地域にある環境資源を活かした環境教育施設の整備

(1) 宮川流域フィールドミュージアム(仮称)事業の推進

宮川流域ルネッサンス事業における「人と自然の共生」のシンボルプロジェクトである「奥伊勢フィールドミュージアム計画推進事業」を宮川流域14市町村に拡大し、「宮川流域フィールドミュージアム(仮称)」として、地域の住民と協働して推進を図っていききたいと考えています。

宮川流域フィールドミュージアムでは、流域に点在する地域の環境、歴史・文化、自然、暮らし等を体感できる魅力ある空間をフィールドとしてとらえます。フィールド成立の条件としては、①流域の豊かな環境を体感できる「場所」を、②「住民団体」が管理、運営し、③魅力を伝える「流域案内人」が存在していることを考えており、案内人は知識だけではなく、熱い想いや地域の誇りを伝えます。

また、14市町村連携のシンボルとして、森林の豊かさが、中下流の環境を支えていることを体感できる「ルネッサンスの森」を整備し、水源涵養林として理解を促進し、林業体験、環境学習等の場として活用したいと考えています。

(2) ビジターセンターの整備

ビジターセンター(博物展示施設)では、自然公園の地形、地質、動物、植物、歴史等を公園利用者が容易に理解できるよう解説又は実物標本、模型、写真、映像、図表などを用いた展示を行っています。

平成11(1999)年度には、鳥羽ビジターセンターと登茂山ビジターセンターの博物展示施設の改修を行いました。

表4-1-1 ビジターセンター一覧表

自然公園名	施設名	所在地	整備年度
伊勢志摩国立公園	鳥羽ビジターセンター	鳥羽市	平.11
	登茂山ビジターセンター	大王町	平.11
	横山ビジターセンター	阿児町	平.10
鈴鹿国定公園	藤原岳自然科学館	藤原町	昭.47

2 環境教育・学習の充実

2-1 学校・社会における環境教育・学習の推進

(1) 環境教育・学習の推進

三重県では、三重県環境教育基本方針に基づき、三重県環境学習情報センターを環境学習基幹施設として、環境教育・学習を推進するとともに、学校教育・社会教育の場においても、環境教育・学

第4章 環境保全活動への参加と協働

習を推進し、環境月間行事・緑化運動などを通じて、環境保全思想の普及啓発に努めています。

これらの事業の推進には、三重県の環境保全を図ることを目的に平成2(1990)年3月に設立した「三重県環境保全基金」の運用益等を活用しています。

表4-1-2 環境教育・学習の状況(平成12年度)

区分	内容
参加型環境学習講座の開催	「大気調査ネットワーク教室」「自然とふれ合おう体験教室」など40講座以上を開講した。
教材の整備・提供	環境啓発用パネルの作成や、環境学習貸出用キットを整備した。
環境教育指導者の養成	環境学習指導者養成講座として「プロジェクトワイルド(米国の環境教育指導法)を学ぼう」「リスクマネジメント(危機管理)能力を身につけよう」「水生生物を調べようモデル講座」などを開講した。
その他	市町村等が実施する環境フェア等への啓発パネル、エコマーク商品の見本等の貸出や出展参加を行った。県内小中高校等の社会見学受入れや環境体験教室を50回以上実施した。

(2) こどもエコクラブ運動

こどもエコクラブ活動は、次世代を担う子供たちの将来にわたる環境保全への高い意識を醸成し、環境への負荷の少ない持続可能な社会を構築するため、平成7(1995)年6月から環境省により始められました。県内でも環境の保全に関する取組を行う意思を有する小学生、中学生が、それぞれの地域でこどもエコクラブを結成し、環境に対する理解を深めるための学習・研究活動や美化活動、リサイクル活動などの実践運動に積極的に取り組んでいます。

こうしたこどもエコクラブ活動を定着させるとともにその活動をさらに推進するため、各クラブのメンバー・サポーターを対象とした交流会や活動を支えるサポーター・市町村の担当職員を対象とした研修会を開催するなどこどもエコクラブ活動を支援しています。

平成12(2000)年度には、登録数が241団体5,052人となり加入率日本一となりました。

表4-1-3 交流会、研修会の実施状況

区分	期日	内容
こどもエコクラブ県内交流会(ようこそMietチビッコエコ王国へ)	平成12年8月27日	環境体験学習など参加者280人
こどもエコクラブ県内交流会 in 桑名	平成12年12月16日	環境体験学習や活動発表 桑名市で開催参加者280人
環境バス教室(出発長良川・おどろき発見号)	平成13年1月27日	木曾三川公園ほか参加者112名
こどもエコクラブ指導者研修会	平成13年3月18日	サポーター、リーダー研修 参加者23人
環境バス教室(こどもエコクラブ全国交流会)	平成13年3月25日	全国フェスティバルびわこ・くさつに参加参加者166名

(3) 身近な環境問題への取組の推進

県内の小、中、高等学校及び盲・聾・養護学校では、身近な地域の環境問題の学習や豊かな自然環境のなかでの様々な体験活動を通して、自然の大切さを学ぶとともに、家庭・地域社会や民間団体等との連携を深め、環境保全に関するボランティア活動などを進めています。

ア 「学校環境デーの実施」

県内の全学校で一斉活動日「学校環境デー」(6月5日)を設定し、各学校が創意工夫した活動を行うことを通じて環境教育に取り組む気運をさらに高め、よりよい環境づくりや環境に配慮した望ましい行動が取れる児童生徒の育成を図っています。

イ 環境教育推進モデル市町村の指定

環境教育推進モデル市町村を指定し、学校内外での諸活動を通じて自然環境を保全し、生命を尊重する態度を育成する教育活動を行うとともに、その成果を広く交流することによって環境教育の充実を図っています。

ウ ISO14001認証取得への取組

現在県立高等学校2校において認証取得への取組を進めています。

エ 学校エコフィス運動の推進

県立高等学校に、大型分別ゴミ箱等の備品を設置し、学校のエコフィス化を進め、各高等学校におけるよりよい環境創造と環境教育の推進をめざしています。

4章 1節

表 4-1-4 環境教育推進モデル市町村における特徴的な取組

- ・身の回りの環境に関心を持たせることが、環境教育の実践に最も有効であるということから、動植物の営みに触れさせる体験を通しての環境教育を実施する
- ・自然環境学習を実施し、子どもの感性を発達させ、自然環境等の保護等を学ぶ
- ・資源のリサイクル等を学ぶ
- ・環境パトロール、環境クリーン運動へ参加する
- ・ISOが定めた環境マネジメントシステムに準じ、可能な範囲内で環境保全に取り組む
- ・実践協力校間の交流会を開催する

平成13年度環境教育推進モデル市町村

宮川村

2-2 自然とのふれあいや実践活動を通じた環境教育・学習の推進

(1) 自然に親しむつどいの開催

緑のNPO活動支援センターが中心となって、身近な緑の保全活動を行う緑のNPO等に対する緑のネットワーク講座の開催、自然観察会への講師の派遣、広葉樹植栽やドングリの種まきの現地講習、校庭のメダカ池づくりなどを行った。

(2) 里山保全の普及啓発

自然と人が支え合って暮らしてきた里山を保存し再生するため、新しい里山と人のつきあいの事例をニューズレター里山マニュアル入門編等により紹介し、広く普及啓発しました。

2-3 自然観察指導員の育成

自然観察指導員を養成し、県民一人ひとりが自然保護の精神を身につけ、次世代へ美しく豊かな自然環境を継承できるよう自然保護教育活動の推進と自然保護思想の普及を図っています。

2-4 環境教育に係る情報ネットワークづくり

環境教育を効果的かつ円滑に推進していくため、「三重県環境教育データブック」を編集しています。平成12(2000)年度も引き続き環境教育に関する情報として、この冊子を環境教育に携わる行政関係者をはじめ教育関係者、地域の環境保全活動家などに提供しました。